

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<学士課程>

観点 5-1-①: 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

【観点到る状況】

本学の教育課程は、学則第2条に定める目的及び第16条「教育課程の編成」に基づき、『教養教育科目』及び『専門教育科目』により編成している（資料5-1-①-A）。

『教養教育科目』については、「大学入門科目」を1年次に配当し、1, 2年次に「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」及び「情報処理科目」で構成される「共通基礎教育科目」を配当している（資料5-1-①-B）。「主題科目」は、幅広い知識と教養の修得を目指し、「分野別主題科目（第1～第6分野）」と「共通主題科目」からなり、「コア授業」、「総合型授業」及び「個別授業」により構成している。「コア授業」は、その分野の科目群の中心的な科目として指定されており、自由選択を基本としつつ、教養教育のある程度の体系化を行っている。総合型授業、個別授業を履修するようカリキュラムが組み立てられ、専門教育と並行して教養教育を行うために1～4年次に配当している。なお、教養教育科目については、33～41単位を学部の卒業要件単位数としている（参照資料5-1-①-ア～イ）。

『専門教育科目』は、学部によって区分は多少異なるが、学位規則第3条に定める授与する学位に応じて、「専門基礎科目」、「専門科目」等から構成している（資料5-1-①-C～D）。4年一貫教育体制（医学部医学科は6年一貫）を原則として、全般的には1～2年次には基礎学力・基礎知識の修得のため専門基礎科目、2～3年次には専門的な講義、演習、実験、4年次にはそれらに加えて卒業研究・ゼミを課し、次第に専門性を高める科目を配置している。専門基礎科目は、講義・演習・実験・実習を通じて、専門に関する基本的知識及び分析方法と総合する能力を養う科目であり、専門科目は、各学部の教育の理念・目的に即して配置している（参照資料5-1-①-ウ）。また、専門教育科目には、自由選択科目等を設定することにより、専門教育における他学科及び他学部との連携を図っている（参照資料5-1-①-エ）。

資料5-1-①-A: 本学における教育課程の編成

(教育課程の編成)

第16条 本学の教育課程は、次の教育科目をもって編成する。

教養教育科目

専門教育科目

- 2 教養教育科目は、大学入門科目、共通基礎教育科目及び主題科目に区分する。
- 3 共通基礎教育科目は、外国語科目、健康・スポーツ科目及び情報処理科目に区分する。
- 4 専門教育科目の区分は、各学部の定めるところによる。

(出典：佐賀大学学則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakusoku/gakusoku.htm>))

資料 5-1-①-B： 教養教育科目の概要（大学入門科目、共通基礎教育科目）

1-2 教養教育科目

教養教育科目は、大学入門科目、共通基礎教育科目及び主題科目から編成されています。これらの科目は、本学の教育課程の大きな特徴をなしています。

1-2-1 大学入門科目

大学入門科目は、全学部において必修であり、1年次の前学期において学習します。ただし、一部の学部・学科等では1年次の前・後学期を通じて学習します。この科目は、比較的少人数で、一方的な講義形式にならないように工夫され、高校時代の勉強方法から大学での勉学方法への転換を助けることを目的としています。授業は、学生諸君が所属する学部・学科等の単位で実施され、学問の基礎となる読み書きの方法を学び、専門分野の全体像を把握することができるように、様々な形態で実施するように考えられています。各学部における大学入門科目の授業内容は、「**教養教育科目の授業概要**」に載っているので、目を通しておいてください。

1-2-2 共通基礎教育科目

共通基礎教育科目は、外国語科目、健康・スポーツ科目及び情報処理科目からなります。共通基礎教育科目は、共通のカリキュラムに基づいて大学の学習と社会生活に必要な基礎を学習する科目群です。

共通基礎教育科目の履修方法は、3-3 に詳しく述べます。また、個々の授業内容は、別冊の「教養教育科目の授業概要」にまとめてありますので、これから受講しようとする授業計画を調べ、各自の履修計画を立てるのに役立ててください。

(1) 外国語科目

佐賀大学で学べる外国語は、英語のほか、ドイツ語、フランス語、中国語及び朝鮮語があります。

外国語科目は、英語1科目の他にドイツ語、フランス語、中国語及び朝鮮語の中から1科目を選び、計2科目を修得する必要があり、大学生に求められる英語を新たに学びなおし、さらにもう一つの新しい外国語を学びます。2種類の言語を学ぶことによって、それぞれの外国語を相対化して考えることができる複眼的視野を身につけ、言葉に対する感性を養うことを目的とします。ただし、一部の学部・学科等では、英語以外の外国語科目の履修は必要ありません。

英語は、従来のクラスの他に、ネイティブスピーカーの講師によるクラスも並行して開設されていますので、希望者は掲示に注意してください。

(2) 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科目は、スポーツ科学講義、健康科学講義、スポーツ科学演習、健康科学演習及びスポーツ実習からなり、講義又は演習のいずれか及びスポーツ実習を必修として履修します。学生生活、社会生活に必要な健康についての基礎知識を学ぶとともに、スポーツ実習を通してスポーツに親しみ、スポーツの意義を考える授業です。ただし、医学部は履修の必要がありません。

(3) 情報処理科目

情報処理科目は、情報基礎概論及び情報基礎演習からなります。情報に満ちあふれているこの社会に適応できるよう、情報とは何か、情報を処理するにはどんな技術があるのか等を学びます。パソコンの使い方や、電子メールの利用法なども学習することができます。

(出典：教養教育運営機構『平成20年度教養教育科目の授業概要』2-3ページ)

資料5-1-①-C: 本学が設置する学部, 学科又は課程 (資料2-1-①-Aの再掲)

学 部	学科又は課程	入学定員	3年次編入学定員	取得できる学位 (付記する名称)
文化教育学部	学校教育課程	90人		学士(学校教育)
	国際文化課程	60人		学士(国際文化)
	人間環境課程	60人		学士(人間環境), (健康福祉・スポーツ)
	美術・工芸課程 (3年次編入学)	30人	20人	学士(美術・工芸)
	小 計	240人	20人	
経済学部	経済システム課程	140人		学士(経済学)
	経営・法律課程	135人		学士(経済学)
	小 計	275人		
医学部	医学科	100人		学士(医学)
	看護学科	60人	10人	学士(看護学)
	小 計	160人	10人	
理工学部	数理科学科	30人		学士(理学)
	物理科学科	40人		学士(理学)
	知能情報システム学科	60人		学士(理学)
	機能物質化学科	90人		学士(理学), (工学)
	機械システム工学科	90人		学士(工学)
	電気電子工学科	90人		学士(工学)
	都市工学科 (3年次編入学)	90人	20人	学士(工学)
	小 計	490人	20人	
農学部	応用生物科学科	45人		学士(農学)
	生物環境科学科	60人		学士(農学)
	生命機能科学科 (3年次編入学)	40人	10人	学士(農学)
	小 計	145人	10人	
合 計		1,310人	60人	

(出典: 佐賀大学学則第3条第2項 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakusoku/gakusoku.htm>),
学位規則第3条 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/gakui.htm>))

資料 5-1-①-D : カリキュラムの概要 (部局例示)

医学部 Faculty of Medicine

医学部 Institute of Medicine
 医学部医学科カリキュラム概要 (平成20年度入学生) Summary of Curriculum(as of April 2008)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
大学入門科目 (医療入門Ⅰ) 医療入門Ⅱ・Ⅲ				ユニット1 (地域医療)		ユニット8 (皮膚・膠原)		臨床実習		臨床実習 地域医療実習 看護教育病院実習	
主題科目				ユニット2 (呼吸器)		ユニット9 (精神・神経)					
外国語科目				ユニット3 (循環器)		ユニット10 (小児・女性)		臨床実習		基礎系・臨床系選択科目	
情報処理科目		医療社会法制		ユニット4 (消化器)		ユニット11 (救急・麻酔)					
医療人間学 医療心理学 生活医療福祉学 基礎生命科学		医療統計学 生活と支援技術		感染学・免疫学・肉眼解剖学Ⅰ・Ⅱ 微生物学 病理学		ユニット5 (代謝・内分泌・腎・泌尿)		臨床実習		基礎系・臨床系選択科目	
細胞生物学Ⅰ・Ⅱ		人体発生学 組織学 生化学 生理学Ⅰ・Ⅱ 薬理学		ユニット6 (血液・腫瘍・感染症)		ユニット12 (社会医学)					
細胞生物学Ⅱ・Ⅳ		薬学系選択科目、基礎系・臨床系選択科目		ユニット7 (運動・感覚器)		ユニット13 (臨床入門)				単位取得	

Phase I Phase II Phase III Phase IV Phase V

看護学科 Institute of Nursing
 医学部看護学科カリキュラム概要 (平成20年度入学生) Summary of Curriculum(as of April 2008)

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
入門科目 情報処理科目		看護の機能と方法				看護の機能と方法	
外国語科目		ライフサイクルと看護				ライフサイクルと看護	
主題科目		地域における看護		地域における看護		地域における看護	
専門基礎科目		臨床実習		臨床実習		臨床実習	
臨床実習		臨床実習		臨床実習		臨床実習	
						看護コース	

教養教育科目 専門基礎科目 看護専門科目

(出典：医学部概要 ウェブサイト (<http://www.med.saga-u.ac.jp/Outline/>))

参照資料 5-1-①-7 : 佐賀大学教養教育科目履修規程

(<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/kyoyokamokurisyu.htm>)

参照資料 5-1-①-イ : 佐賀大学教養教育科目履修細則

(<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/kyoyokamokusaisoku.htm>)

参照資料 5-1-①-ウ : 各学部規則

文化教育学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/bunkyo/kisoku.htm>)

経済学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/keizai/kisoku.htm>)

医学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/igakuhtm/kisoku.htm>)

理工学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/riko/kisoku.htm>)

農学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/nogaku/kisoku.htm>)

参照資料 5-1-①-エ : 各学部履修細則

文化教育学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/bunkyo/risyusaisoku.htm>)

経済学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/keizai/risyusaisoku.htm>)

医学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/igakuhtm/risyu.htm>)

理工学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/riko/risyusaisoku.htm>)

農学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/nogaku/risyusaisoku.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

学則に定める本学の目的に照らして、教養教育は、1年次に大学入門科目、1～2年次に共通基礎教育科目を履修することとし、主題科目については4年間を通じて履修できるよう配慮している。また、専門教育では、1～2年次に専門基礎科目、2～3年次に演習、実験等を履修し、4年次には卒業研究・ゼミを課すことにより、段階的に専門性を高めていくようカリキュラムを編成している。これらのことから、教育の目的や授与される学

位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっている。

観点 5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

学生の多様なニーズに配慮し、他学部での授業科目を履修した場合、学部が定める上限に応じて卒業要件単位に換算している（別添資料 5-1-②-1～2）。

また、他大学と単位互換協定等を締結し、各学部が定める互換可能な科目について単位認定しており、平成 20 年度には、県内の大学・短大が加盟する「大学コンソーシアム佐賀」による単位互換制度が開始され、このコンソーシアムの活動を基盤として取り組む「知の拠点として地域をリードする大学間教育ネットワーク推進事業」が「戦略的大学連携支援事業（文部科学省）」に採択されている（別添資料 5-1-②-3）。インターンシップについては、学部・学科等における教育の目的に応じて、「学外実習等」の名称により、授業科目として開設している。

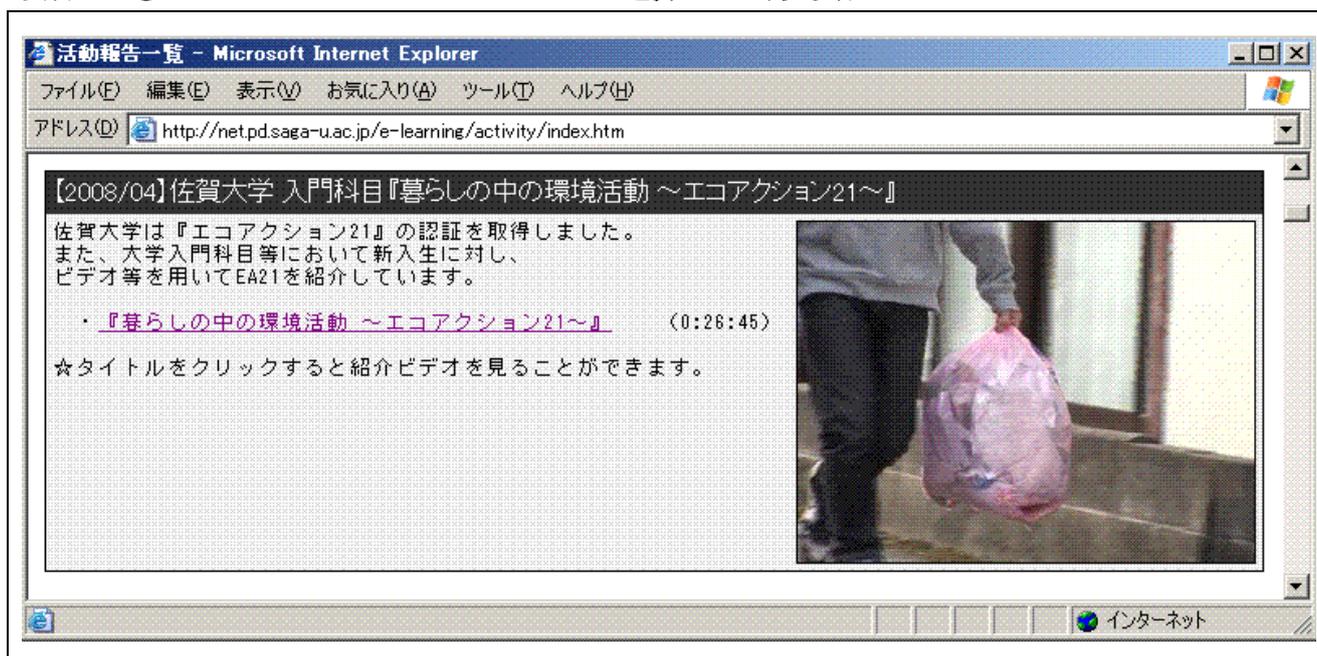
転入学・転学部（転学科、転課程）の制度を学則に基づき設けており、経済学部を除く 4 学部では、編入学の制度を設け、高等専門学校や短期大学を卒業した者等が第 3 年次へ編入学している（参照資料 5-1-②-ア～ウ）。

さらに、①平成 15 年度特色 G P に採択された「佐賀環境フォーラム」（参照資料 5-1-②-エ）を継承し、「エコアクション 21」との連携による環境教育（資料 5-1-②-A）、②平成 16 年度現代 G P 「ネット授業の展開」（別添資料 5-1-②-4）を進展させ、平成 20 年度教育 G P に採択された「創造的人材育成～誰でもクリエイター～」によるデジタル表現技術教育科目（参照資料 5-1-②-オ）、③平成 20 年度教育 G P 採択プログラム「実践臨床医養成への問題基盤型学習の実質化」（別添資料 5-1-②-5）、④平成 17 年度特別教育研究経費（教育改革）「地域創生型学生参画教育モデル開発事業」（参照資料 5-1-②-カ）を引き継いだフィールド型の教養教育科目や専門教育科目等により、学生のニーズや社会からの要請に応じている。

その他、修士（博士前期）課程教育との連携等については、学部学生及び大学院学生が相互に単位を修得できるよう配慮している（参照資料 5-1-②-キ）。

研究成果や学術の発展動向への配慮は、個々の教員が授業科目の内容に反映させている（別添資料 5-1-②-6）。

資料 5-1-②-A: エコアクション 21 との連携による環境教育



(出典: e ラーニングスタジオ活動報告一覧 ウェブページ (<http://net.pd.saga-u.ac.jp/e-learning/activity/index.htm>))

別添資料 5-1-②-1: 学内開放科目開設要項

別添資料 5-1-②-2: 学内開放科目一覧

別添資料 5-1-②-3: 戦略的大学連携支援事業「知の拠点として地域をリードする大学間教育ネットワーク推進事業」パンフレット

別添資料 5-1-②-4: 現代 G P 「ネット授業の展開」報告書 (平成 18 年度) (抜粋)

別添資料 5-1-②-5: 教育 G P 「実践臨床医養成への問題基盤型学習の実質化」概要

別添資料 5-1-②-6: 教育関連研究活動の例

参照資料 5-1-②-ア: 佐賀大学学則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakusoku/gakusoku.htm>)

参照資料 5-1-②-イ: 各学部等編入学規程

文化教育学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/bunkyo/hennyugaku.htm>)

医学部看護学科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/igakuhtm/henyugaku.htm>)

理工学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/riko/hennyugaku.htm>)

農学部 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/nogaku/hennyugaku.htm>)

参照資料 5-1-②-ウ: 佐賀大学理工学部転入学に関する細則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/riko/tennyugaku.htm>)

参照資料 5-1-②-エ: 佐賀環境フォーラム ウェブサイト (<http://net.pd.saga-u.ac.jp/saga-forum/index.html>)

参照資料 5-1-②-オ: 教育 G P 「創造的人材育成～誰でもクリエイター～」ウェブサイト (<http://net.pd.saga-u.ac.jp/digi-pre/>)

履修案内 (シラバス) (http://net.pd.saga-u.ac.jp/digi-pre/_userdata/risyutebiki.pdf)

参照資料 5-1-②-カ: 地域創生型学生参画教育モデル開発事業 ウェブサイト (<http://net.pd.saga-u.ac.jp/sousei/>)

参照資料 5-1-②-キ: 佐賀大学科目等履修生規程 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/kamokurisyu.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

他学部の授業科目の履修を、学部の教育課程の編成の趣旨に応じて卒業要件単位に換算し、他大学との単位互換協定等に基づき単位認定している。また、編入学や転学部制度の導入、インターンシップも行っている。さらに、佐賀環境フォーラム、ネット授業の展開といった文部科学省 G P 採択事業に取り組んでいる。これらのことから、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果を反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮がなされている。

観点 5-1-③： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点到に係る状況】

履修する単位数の上限設定を、学部における教育の目的に応じて、集中講義による授業科目や教員免許及び資格取得のための授業科目については例外とし、一学期に 25 単位程度と定めている（別添資料 5-1-③-1）。また、授業時間外の自主的学習を促すため、「シラバス作成に関する要項」（資料 5-1-③-A）を制定し、オンラインシラバス（参照資料 5-1-③-ア）に授業の目的・計画や自主学習を促すための課題等を記載している。授業科目毎に予習・復習に費やした時間については、学生による授業評価（参照資料 5-1-③-イ）によって調査している。

さらに、「成績評定平均値に関する規程」（参照資料 5-1-③-ウ）により、GPA 制度を導入、周知徹底するとともに（資料 5-1-③-B）、GPA を用いた学修指導計画を学部ごとに策定し、GPA に基づいて担任教員による履修指導、成績優秀者の表彰等を行っている（別添資料 5-1-③-2）。

資料 5-1-③-A： シラバス作成に関する要項

シラバス作成に関する要項

（平成 19 年 3 月 26 日制定）

（作成目的）

第 1 条 次に掲げる目的を達成するため、佐賀大学（以下「本学」という。）の授業を担当する教員（以下「担当教員」という。）は、シラバスを作成するものとする。

- (1) 授業の教育目的を明確にする。
- (2) 授業を体系的・計画的に展開する。
- (3) 学生に授業計画を周知し、学習計画を立てさせる。
- (4) 学生に成績評価に関する情報を周知する

（記載項目）

第 2 条 シラバスの記載項目は、大学教育委員会の議を経て、決定する。

（実施）

第 3 条 シラバスは、本学で開講される全授業科目について、作成し、公開する

2 シラバスの記載内容は毎年更新し、指定された期日・方法で提出又は入力する。

3 担当教員は、第 1 回目の授業において、該当科目のシラバスについて説明する。

（雑則）

第 4 条 この要項に定めるもののほか、シラバス作成に必要な事項は、大学教育委員会において定める。

附 則

この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

（出典：シラバス作成に関する要項）

資料 5-1-③-B : GPA制度について (学生用説明文)

GPA制度について (学生用説明文)

H. 19. 4大学教育委員会

改訂 H. 20. 4大学教育委員会



佐賀大学では平成19年度新入学生(学部生のみ)よりGPA制度を導入しています。また、大学院生についても、平成20年度新入学生よりGPA制度を導入します。

GPAとはGrade Point Averageの略で、もともとアメリカで一般的に行われている学生の成績評価方法の一つで、学生一人の履修科目の成績の平均を数値で表すものです。従来日本の大学で行われてきた「優、良、可、不可」といった大まかな成績評価に比べて、GPAによる成績評価は、学生が自分の履修状況をより客観的に把握でき、教員にとってもよりきめ細かな履修指導ができるということ、また教育の国際化という観点からも、最近日本でもこの制度を導入する大学が増えています。以下佐賀大学におけるGPAについて簡単に説明します。

- GPAは、学生が履修した各科目の評価に一定のGPを与え、このGPにその科目の単位数を乗じ、その合計を履修科目の総単位数で割って算出します。GPAの対象となる科目は、教養教育科目、専門教育科目、教職に関する科目の中で、5段階評価によって成績を認定された科目とし、5段階評価のそれぞれに次のGPを与えます。

成績評価	GP	可否
秀 (90~100点)	4.0	合格
優 (80~89点)	3.0	合格
良 (70~79点)	2.0	合格
可 (60~69点)	1.0	合格
不可 (60点未満)	0	不合格

※【5段階評価によって認定された全ての授業科目がGPAの対象。】

- GPAは学期ごとに算出したもの(=学期ごとGPA)と、各学期を通算したもの(=通算GPA)があり、その計算方法は次のとおりです。計算値は、小数点以下第2位を四捨五入して表記します。

学期ごとGPA

$$\frac{(\text{当該学期に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

通算GPA

$$\frac{((\text{各学期に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

※【学期ごとGPA及び通算GPAを算出】

(出典：学生センター ウェブサイト (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gpa-gaku.pdf>))

別添資料 5-1-③-1：単位数の上限設定に関する規則等

別添資料 5-1-③-2：GPAを用いた学習計画等

参照資料 5-1-③-ア：オンラインシラバス

(<http://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>)

参照資料 5-1-③-イ：「学生による授業評価」の実施に関する報告書 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.html>)

参照資料 5-1-③-ウ：成績評定平均値に関する規程 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/gpa.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

学部における教育の目的に応じて、履修する単位数に上限を設け、オンラインシラバスに課題を明記するなどにより、授業時間外の自主的学習を促すとともに、予習・復習に費やした時間を学生による授業評価によって調べている。また、GPA制度を導入するとともに、GPAを用いた学修指導計画を策定し、履修指導を実施している。これらのことから、単位の実質化に配慮がなされている。

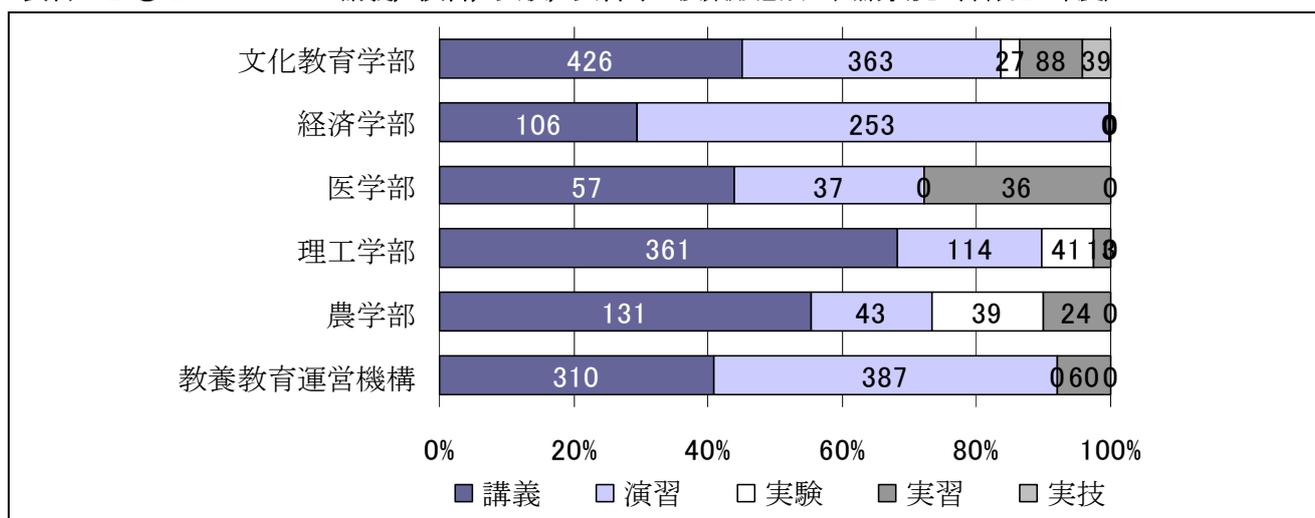
観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

【観点到に係る状況】

教養教育運営機構及び各学部、学科、課程は、それぞれの教育目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態を組み合わせるとともに（資料5-2-①-A）、①少人数授業（資料5-2-①-B）、②平成16年度現代G P「ネット授業の展開」（別添資料5-1-②-4【前掲】）、③平成20年度教育G P「創造的人材育成～誰でもクリエーター～」(参照資料5-2-①-ア)によるICTを活用した授業科目、④平成15年度特色G Pに採択された「佐賀環境フォーラム」（参照資料5-2-①-イ）、⑤平成17年度特別教育研究経費（教育改革）「地域創生型学生参画教育モデル開発事業」（参照資料5-2-①-ウ）、⑥平成20年度教育G P「実践臨床医養成への問題基盤型学習の実質化」（別添資料5-1-②-5【前掲】）等を中心として、学習指導法の研究開発に取り組み、効果的な学習がなされるよう工夫している。

また、理工学部の3学科では、JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定要件で定められた規定による教育プログラム（資料5-2-①-C）を実施しており、医学部医学科では問題解決型学習（PBL）等、教育の内容に応じた学習指導法（資料5-2-①-D）による教育活動を行っている。

資料5-2-①-A： 講義、演習、実験、実習等の授業形態別の開講状況（平成20年度）



(出典：教務課データより作成)

資料 5-2-①-B : 少人数授業の例 (部局例示)

共通主題分野 (第 1 分野)
「地域と文明」の概要

共通主題分野「地域と文明」の目的は、佐賀の歴史、文化、教育、地理、自然、科学、産業など地域に関する身近な諸課題について具体的に学び経験することを通して、問題発見力と問題解決力を養うことである。また、佐賀で学ぶメリットを生かして知的関心を高め、本学で学ぶ意義 (アイデンティティ) を実感することも「地域と文明」の目的である。

この目的を達成するには、担当教員と受講学生間のコミュニケーションが不可欠である。そのため、「地域と文明」の授業は、少人数のクラス (20 人程度) で実施される注 1)。受講学生には、受身ではなく、積極的な参加が求められる。主体的に学ぶことを通して、問題を発見し、解決し、発表することの喜びと充実感を得て欲しい。

注 1) クラス人数の詳細については、各授業のシラバスを参照のこと。

「地域と文明」は、2 つの副主題で構成される。

◎ 副主題「地域とくらし」では、九州北部に位置する佐賀の自然的・社会的環境の中で営まれる人々の「くらし」について考察する。

◎ 副主題「佐賀の文化」では、佐賀の風土が育んできた文化・芸術・教育・科学・産業等の多様性とその意義について考察する。問題発見・問題解決の方法は、学習対象によって大きく異なる。そのため、授業方法は授業科目によって異なるが、基本的には、次のように実施される。

- 1 担当教員ならびに地域で活躍している人による講義・解説があり、それを通して、考えるための基礎知識を学ぶ取る。
- 2 学習対象を具体的に把握して理解するため、講義のない平日の時間帯や土曜・日曜を利用して、見学・調査・討論等が行われる。
- 3 担当教員の指導を得ながら、与えられて課題に関する文献等を調べ、学習する。学習は、課題や必要性に応じて、グループに分かれて行う。
- 4 学習結果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。

(出典：佐賀大学教養教育運営機構『平成 20 年度教養教育科目の授業概要』201 頁)

資料 5-2-①-C : J A B E E 認定証



(出典：理工学部知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科 ウェブサイト)
 (知能情報システム学科 (<http://www.ma.is.saga-u.ac.jp/JABEE/>)
 (機能物質化学科 (<http://www.chem.saga-u.ac.jp/ChemEdu/jabee/jabee.html>)
 (機械システム工学科 (<http://www.me.saga-u.ac.jp/>))

資料5-2-①-D： 教育の内容に応じた学習指導法の工夫事例（学部専門教育）

文化教育学部	
科目名	内容
保育学Ⅰ	家庭看護の領域では医学部看護学科の准教授に内部講師として講義を依頼したり、附属幼稚園での保育実習を取り入れたりして、多様な授業を行った。
経済学部	
科目名	内容
経営情報システムⅡ	講義資料のWeb公開などやプレゼンテーションソフトを用いた情報通信技術を学生自ら触れることに努めた。
医学部	
科目名	内容
PBL ユニット1	臨床推論では知識体系の獲得こどのような思考形態が利用されているかについて臨床事例およびClinical Reasoningの教科書を基に解説している。一部の学生からは難しいとの評価もあるが、多くの学生に臨床推論の重要性についての理解を得ている。
理工学部	
科目名	内容
ソフトウェア工学	講義HPを通じた講義コンテンツの提供、レポートの回収、採点結果およびコメントのフィードバック、大福帳を用いた学生の意見・コメントの収集および回答など、様々な工夫や努力を行った。
農学部	
科目名	内容
熱帯農業論	各授業で感想とともに興味深かった点と分り難かった点についてアンケートをとり、次の講義の始めに特に理解が不十分な点について再度解説を試みた。また、パワーポイントの要点を研究室の前に掲示し、授業の要点が周知できるように配慮した。
教養教育運営機構	
科目名	内容
進学・就職の地域間移動に見る佐賀	受講生各自が(授業の目標から逸脱しない限りで)テーマを設定し、講師が提示するデータ一覧からテーマの説明に資するものを選択・分析するとともに、データを補完するためのインタビュー、質問紙調査を実施してもらい、問題発見能力、自立性の涵養を図った。

(出典：平成20年度教員報告様式データから作成)

参照資料5-2-①-A：教育GP「創造的人材育成～誰でもクリエイター～」ウェブサイト (<http://net.pd.saga-u.ac.jp/digi-pre/>)
履修案内(シラバス) (http://net.pd.saga-u.ac.jp/digi-pre/_userdata/risyutebiki.pdf)
参照資料5-2-①-I：佐賀環境フォーラム ウェブサイト (<http://net.pd.saga-u.ac.jp/saga-forum/index.html>)
参照資料5-2-①-U：地域創生型学生参画教育モデル開発事業 ウェブサイト (<http://net.pd.saga-u.ac.jp/sousei/>)

【分析結果とその根拠理由】

教養教育と専門教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習や少人数授業、ICTを活用した「ネット授業の展開」、「佐賀環境フォーラム」及び「地域創生型学生参画教育モデル開発事業」のようなフィールド型授業、医学部の問題解決型学習(PBL)を採用している。これらのことから、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

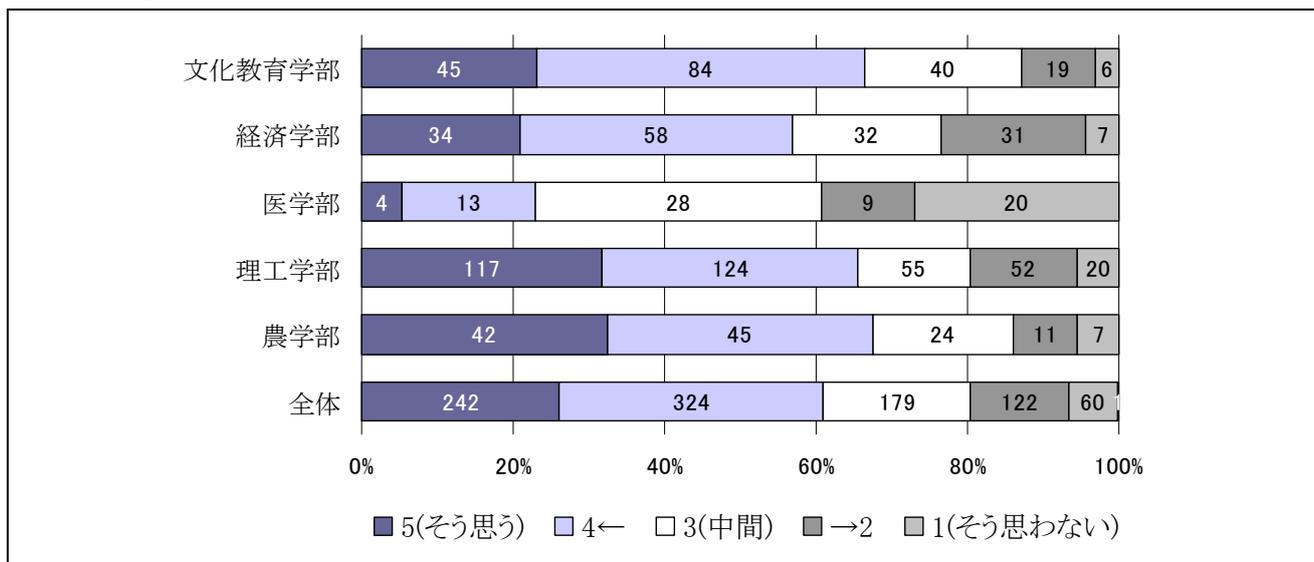
【観点に係る状況】

全学的に統一した様式によるシラバスを、全ての授業科目について公開することを中期目標・計画に定め、インターネット上の「教務情報事務システム」に掲載することにより、学生が活用できるよう整備している。オンラインシラバス（参照資料5-2-②-ア）は、「シラバス作成に関する要項」（資料5-1-③-A【前掲】）に基づき、シラバス作成の目的を明確にし、「講義概要（開講意図・到達目標等含む）」、「授業計画」、「成績評価の方法と基準」、自主学習を促すための課題等の項目を記載している。また、授業担当者は「シラバス作成に関する要項」に従って、オンラインシラバスの見直しを行い、適切なシラバスの整備に取り組んでいる（別添資料5-2-②-1）。

在校生を対象としたアンケートによれば、「シラバスは科目選択の参考になりましたか」という質問への回答は、概ね平均3点（5段階評価）以上となっている（資料5-2-②-A）。

なお、オンラインシラバスは必要に応じ、印刷媒体でも配布され、学生が履修する際に活用されている（別添資料5-2-②-2）。

資料5-2-②-A： 科目選択におけるシラバスの参考度（平成20年度）



（出典：学生対象アンケート報告書（平成20年度）24頁より作成）

別添資料5-2-②-1：平成20年度第1回大学教育委員会附議事項（抜粋）

別添資料5-2-②-2：教養教育運営機構「授業の概要」（表紙）

参照資料5-2-②-ア：オンラインシラバス

(<http://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>)

【分析結果とその根拠理由】

開講意図・到達目標を含めた講義概要、授業計画、成績評価の方法と基準等の項目が記載されたオンラインシラバスを、全ての授業科目について「教務情報事務システム」上に掲載し、学生が科目選択の参考にしている。これらのことから、教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成され、活用されている。

観点 5-2-③： 自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

【観点に係る状況】

「シラバス作成に関する要項」(資料 5-1-③-A【前掲】)の第1条(3)に「学生に授業計画を周知し、学習計画を立てさせる」と定め、全学的にオフィスアワー等の制度を設け、授業以外の時間における自主学習の助言・指導に取り組んでいる(参照資料 5-2-③-ア)。

また、図書館では夜間開館を行い、グループ学習室、マルチメディアルーム、リスニングルーム及び閲覧個室等の自習室を整備している(資料 5-2-③-A, 参照資料 5-2-③-イ)。総合情報基盤センターでは、講義を除く時間帯でセンター内の端末を開放している(参照資料 5-2-③-ウ)。その他、各学部においても、自学自習のための演習室等を整備している(別添資料 5-2-③-1)。

基礎学力不足の学生に対しては、入学前に全学部の新入学生を対象とした「リメディアル物理」を実施している。また、平成 20 年度は文化教育学部の授業科目を中心に、数学、物理等の補習授業を開講している(資料 5-2-③-B)。また、「チューター(担任)制度に関する実施要項」(別添資料 5-2-③-2)を制定し、チューター(担任)を介して基礎学力不足の学生に配慮できる体制を整えている。

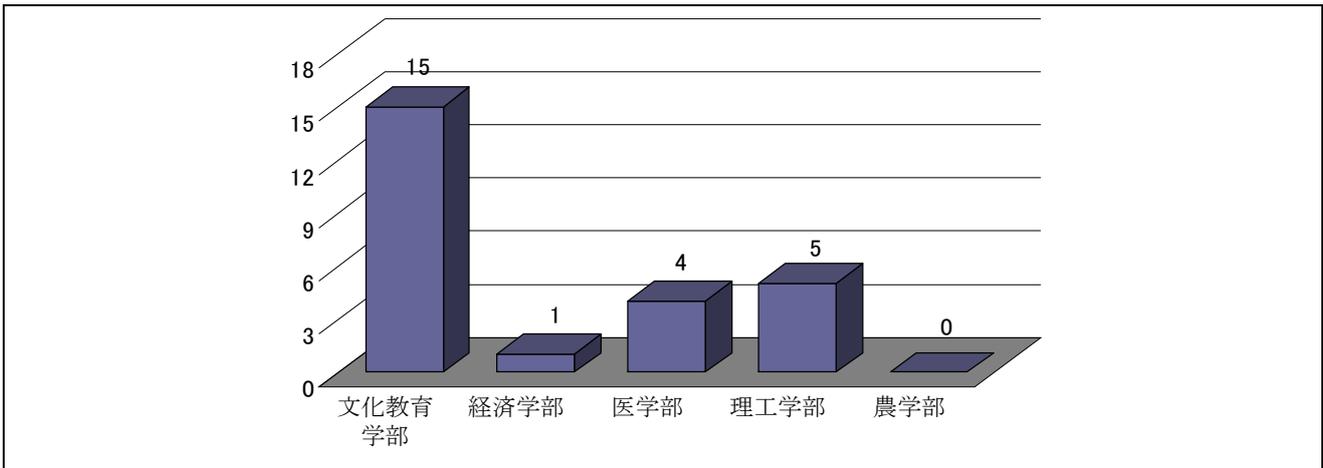
e ラーニングスタジオにおいても、ICTを活用した自学自習用コンテンツを配信し、基礎学力不足の学生に配慮している(資料 5-2-③-C)。

資料 5-2-③-A： 図書館の開館時間

本 館				
学 期	曜 日	時 間	備 考	
授業期	月～金曜日	9:00 ～ 20:00	(休館日) 開学記念日 夏季一斉休業日 年末年始 毎月第4木曜日 (7月を除く。)	
	土曜日	10:00 ～ 19:00		
	日曜日・祝日	10:00 ～ 19:00		
試験期	月～金曜日	9:00 ～ 21:00	試験期： 前・後学期定期試験開始日の1週間 前から前・後学期定期試験最終日まで。	
	土曜日	10:00 ～ 19:00		
	日曜日・祝日	10:00 ～ 19:00		
休業期	月～金曜日	9:00 ～ 20:00		
	土曜日	10:00 ～ 19:00		
	日曜日・祝日	10:00 ～ 19:00		
医学分館				
学 期	曜 日	有人開館	無人開館	備 考
授業期	月～木曜日	9:00 ～ 21:00	21:00～ 翌日 9:00	(休館日) 国民の祝日 年末年始
	金曜日	9:00 ～ 21:00	21:00～ 翌日 10:30	
	土・日曜日	10:30 ～ 18:30	閉館	
休業期	月～木曜日	9:00 ～ 17:15	17:15～ 翌日 9:00	国民の祝日等休館日の前日は、 有人開館終了後の無人開館は行 いません。
	金曜日	9:00 ～ 17:15	閉館	
	土・日曜日	閉館	閉館	

(出典：佐賀大学附属図書館利用規程 別表(第5条関係) (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/tosyo/ritokitei.htm>))

資料 5-2-③-B : 補習授業の実施状況 (平成 20 年度)



(出典：平成 20 年度教員報告様式データより作成)

資料 5-2-③-C : e ラーニングスタジオの自学自習用コンテンツ

自学学習用 (旧リメディアル)
 佐賀大学 e ラーニングシステム
 Saga University e-Learning System since 2002

LEARNING with Net Walkers

佐賀大学ホームページへ

What's new !!

- [2007/08/16] メンテナンス及び移転のため、9月末までサーバを停止します。
- [2007/04/03] リメディアルサイトが新しくなりました。『数学Ⅱ、Ⅲ、A、B、C』のテキスト、問題 & 解答が追加されています。
- [2006/07/12] 『数学Ⅲ』は、テキスト(音声付)をアップしつづつあります。問題はしばらくお待ち下さい。
- [2006/07/12] 只今、『数学Ⅰ(テキスト、問題 & 解答)』と『英語』の自学自習ができます。英語でヒアリング能力を高めて下さい。

ログイン サンプル ガイダンス

佐賀大学 eラーニング

■ 教養教育運営機構 0952-28-8817
 ■ 教育実践総合センター内 eラーニングスタジオ 0952-20-4731
 ■ リメディアル管理者メール <問合せフォーム>をご利用ください。

Copyright © 2006 Saga University All Rights Reserved.

(出典：e ラーニングスタジオ ウェブサイト (<http://netwalkers.pd.saga-u.ac.jp/remedial/>))

別添資料 5-2-③-1：主な自習スペース・学生用ラウンジ

別添資料 5-2-③-2：佐賀大学チューター（担任）制度に関する実施要項

参照資料 5-2-③-ア：オフィスアワー ウェブサイト (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html>)

参照資料 5-2-③-イ：附属図書館 ウェブサイト (<http://www.lib.saga-u.ac.jp/>)

参照資料 5-2-③-ウ：総合情報基盤センター「総合情報基盤センターの利用について」 ウェブサイト (<http://www.cc.saga-u.ac.jp/use/guidance.php>)

【分析結果とその根拠理由】

全学的にオフィスアワー及びチューター（担任）制度による助言・指導体制を整備し、基礎学力不足の学生には、入学前に新入学生を対象とした「リメディアル物理」を実施している。また、eラーニングによる自学自習用コンテンツの配信、補習授業を実施している。これらのことから、自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われている。

観点 5-2-④： 夜間において授業を実施している課程（夜間学部や昼夜開講制（夜間主コース））を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-2-⑤： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-3-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されているか。

【観点到る状況】

成績評価基準及び卒業認定基準については、学則第 22 条及び第 35 条（資料 5-3-①-A）、「成績判定等に関する規程」（参照資料 5-3-①-ア）等において定めている。学則、成績判定等に関する規程等は学生便覧（別添資料 5-3-①-1）等に掲載し、オリエンテーション、学科・課程ごとのガイダンス等において学生に周知を図っている（別添資料 5-3-①-2）。成績評価は、「成績評価基準等の周知に関する要項」（資料 5-3-①-B）に基づき、オンラインシラバスに各科目の成績評価基準を明記し、学生に周知するとともに、その基準に沿って、平素の学修状況、出席状況、学修報告、論文及び試験等を総合的に判断して秀、優、良、可、不可の評語により行っている（資料 5-3-①-A【再掲】）。なお、これらの基準の周知度アンケート調査の結果は、高い周知の程度を示している。（資料 5-3-①-C）。

卒業認定は、学則第 35 条、学部規則に定める卒業の要件等に基づき、教務委員会等で事前に審査し、教授会の議を経て認定している（資料 5-3-①-A, D）。

理工学部の 3 学科では、教育プログラムが J A B E E から認定を受けており、その認定に当たっては、成績評価、単位認定、卒業認定等に関する審査を受けている（別添資料 5-3-①-3、参照資料 5-3-①-イ）。

資料5-3-①-A： 学則第22条及び第35条

<p>(成績の判定) 第22条 学生が一の授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。 2 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。</p> <p>(卒業の認定) 第35条 第6条第1項本文又は第2項に規定された期間以上在学し、第17条に規定された所定の単位を修得又は授業時間を履修した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。 2 本学(医学部医学科は除く。)に3年以上在学し、第17条に規定された所定の単位を優秀な成績で修得したと認められる者が、第6条第1項ただし書に定める修業年限で卒業を希望した場合には、別に定めるところにより、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与することができる。 3 前2項の規定により卒業の要件として修得すべき124単位のうち、第18条第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。ただし、卒業の要件として修得すべき単位数が124単位を超える場合において、当該単位数のうち、第18条第1項の授業の方法により64単位以上を修得しているときは、同条第2項の授業の方法により取得する単位数は、60単位を超えることができるものとする。</p>

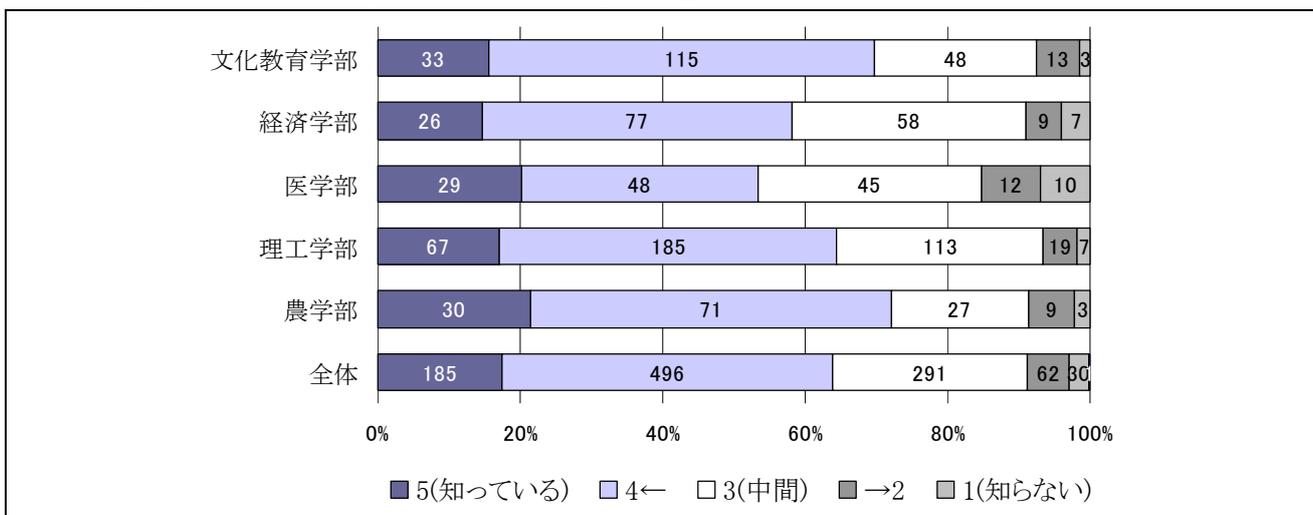
(出典：佐賀大学学則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/ki-soku/gakusoku/gakusoku.htm>))

資料5-3-①-B： 成績評価基準等の周知に関する要項

<p>成績評価基準等の周知に関する要項</p> <p style="text-align: right;">(平成19年1月30日制定)</p> <p>1. 全授業科目において、担当教員は、担当科目の成績評価基準をシラバスに明記するものとする。</p> <p>2. 授業科目を開講する学部、教養教育運営機構及び研究科は、授業科目の評価に要する次に掲げる情報を学生に提供するものとする。</p> <p>(1) 試験問題(定期試験以外の試験も含む。), レポート, 課題等 (2) 模範解答又は解答例 (3) 問題配点等の自己採点に必要な情報</p> <p>附 則 この要項は、平成19年2月1日から実施する。</p>
--

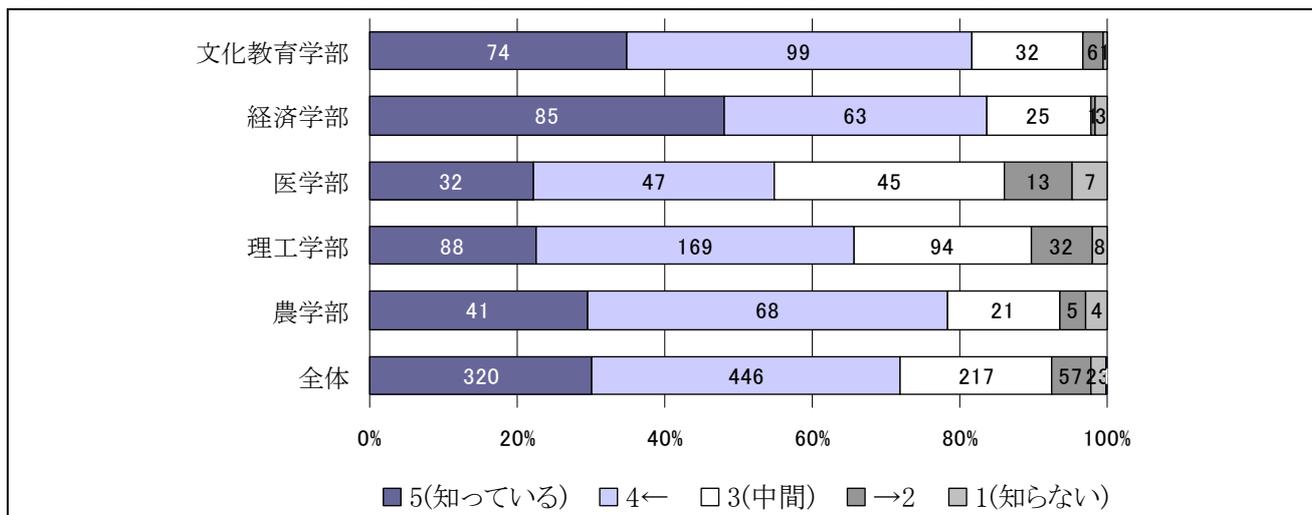
(出典：成績評価基準等の周知に関する要項)

資料5-3-①-C： 履修した授業科目の成績評価基準の周知状況(平成20年度)



(出典：佐賀大学学生対象アンケート報告書(平成20年度)4頁)

資料 5-3-①-D: 所属する学部での卒業認定基準の周知状況 (平成 20 年度)



(出典: 佐賀大学学生対象アンケート報告書 (平成 20 年度) 5 頁)

別添資料 5-3-①-1: 学生便覧 目次 (参考: http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/h21_Binran.pdf)

別添資料 5-3-①-2: 学科ごとのガイダンス等における成績評価に関する説明資料等 (例示)

別添資料 5-3-①-3: 理工学部知能情報システム学科 J A B E E 認定資料 (広報誌「かちがらす第 2 号 2004 年 9 月 30 日」) (抜粋)
(参考: <http://www.saga-u.ac.jp/koho/kohosi2.pdf>)参照資料 5-3-①-ア: 佐賀大学成績判定等に関する規程 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/seisekihantei.htm>)

参照資料 5-3-①-イ: J A B E E 認定に関するウェブサイト

理工学部知能情報システム学科 (<http://www.ma.is.saga-u.ac.jp/JABEE/>)理工学部機能物質化学科 (<http://www.chem.saga-u.ac.jp/ChemEdu/jabee/jabee.html>)理工学部機械システム工学科 (<http://www.me.saga-u.ac.jp/>)

【分析結果とその根拠理由】

学則等に定める成績評価及び卒業認定の基準を、オンラインシラバスへの掲載、オリエンテーション、学科・課程毎のガイダンス等により学生に周知し、成績評価の適正化を行っている。また、学生が成績評価や卒業認定の基準をよく認識している。これらのことから、教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されている。

観点 5-3-②: 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

成績判定を「成績判定等に関する規程」(参照資料 5-3-②-ア) に基づき行っており、成績評価の正確さを担保するための措置として、定期試験における不正行為及び実験等における不正行為を明記している。

また、「成績評価の異議申立てに関する要項」(資料 5-3-②-A) を定め、成績評価に疑問のある学生は担当教員に申し出て、答案、レポート等を閲覧できることとしている。授業担当者には試験問題や答案を保存するよう指示し、開示方法を「教務情報事務システム」上に掲載した(資料 5-3-②-B)。本要項に基づき、学生が成績評価への質問又は異議を担当教員に申し出ている場合、学生と担当教員との協議によって成績評価に対する疑義が

解消されている（資料5-3-②-C）。

資料5-3-②-A： 成績評価の異議申立てに関する要項

<p>成績評価の異議申立てに関する要項</p> <p style="text-align: right;">(平成19年1月30日制定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全授業科目において、担当教員は、成績評価に用いた答案、レポート等を成績通知後から3か月間保存するものとする。 2. 学生は、成績通知後、1か月以内（やむを得ない事情がある場合は、2か月以内）に担当教員に申し出て、自己の提出した答案、レポート等を確認するため、閲覧することができる。 3. 学生は、成績評価に質問又は異議がある場合は、成績通知後1か月以内（やむを得ない事情がある場合は、2か月以内）に担当教員に申し出ることができる。担当教員との協議によっても成績評価に対する疑義が解決されない場合又は担当教員と協議ができない場合には、学生は学部長（教養教育科目にあつては、教養教育運営機構長、大学院の授業科目にあつては研究科長とする。以下同じ。）に異議を申し立てることができる。 4. 前項後段の異議の申立てがあつた場合は、学部、教養教育運営機構及び研究科の教育に関する委員会において申立て内容等を調査・検討する。その結果を踏まえ、学部長は、教授会（教養教育科目にあつては、教養教育運営機構協議会、大学院の授業科目にあつては、研究科委員会。以下「教授会等」という。）の議を経て、対応を決定する。 5. 前項教授会等の審議結果は、当該学生に通知する。また、該当科目の評価に要する情報、答案、レポート等は、教授会等の議が終了するまで保存するものとする。 <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>この要項は、平成19年2月1日から実施する。</p>
--

(出典：成績評価の異議申立てに関する要項)

資料5-3-②-B： 試験問題、解答例等の開示方法

<p>成績評価の方法と基準</p>	<p>c. 一貫性や明晰さにやや欠けるものの、テーマがある。(4ポイント)</p> <p>d. 一貫性のあるテーマが、明確に設定されている。(5ポイント)</p> <p>3. 論理の展開(14ポイント)</p> <p>※自らのテーマ(主題)について、具体的・論理的に説明されていること。 (採点例)</p> <p>a. ありきたりな一般論、トートロジー(同語反復)に終わっている。(5ポイント)</p> <p>b. ありきたりな一般論から脱して、自分なりの論述になっているもの。(6~8ポイント)</p> <p>c. 具体的な例を提示して、テーマの設定に努めている。(9~11ポイント)</p> <p>d. c)に比べ、論理が緻密になっている。(12~14ポイント)</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【解答例等の開示】 履修予定者には、以下の資料等をオリエンテーション時に配布します。</p> <p>(1) レポート等の課題</p> <p>(2) レポート等の解答例または出題の意図</p> <p>(3) 配点</p> </div>
-------------------	---

(出典：オンラインシラバス (<http://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>))

資料 5-3-②-C: 担当教員との成績評価に関する協議事例

文化教育学部	
科目名	内容
該当なし	同左
経済学部	
科目名	内容
国際経済論	答案を見せながら、具体的に説明した。
医学部	
科目名	内容
該当なし	同左
理工学部	
科目名	内容
基礎解析学I	すべての答案を見せて、採点方法を説明した。なお、すべての問題に対する配点、評価基準はすべてホームページで公開している。
農学部	
科目名	内容
生物統計学	各本人と一緒に答案を検討し、正解・不正解および点数の確認、また模範解答を示した。
教養教育運営機構	
科目名	内容
スポーツ実習	成績の不服を申し立てに来た学生が1名いたが、出席状況や得点化の方法を再度説明し(授業中にも説明済み)、不合格であることを納得させた。

(出典：平成20年度教員報告様式データ)

参照資料 5-3-②-A: 佐賀大学成績判定等に関する規程 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/seisekihantei.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

「成績判定等に関する規程」により成績判定を行い、「成績評価の異議申立てに関する要項」を制定して、学生が異議申し立てできる制度を採用している。この制度により学生と授業担当者間で成績評価に対する疑問が解消されている。これらのことから、成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられている。

<大学院課程>

観点 5-4-①: 教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

【観点到係る状況】

各研究科は教育の目的を各研究科規則（参照資料 5-4-①-ア）に定め、学位規則第 3 条に定める授与する学位に応じて、大学院学則第 11 条の 2 に定める教育課程の編成方針、及び各研究科の履修規則に則り、大学院学生が専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得できるよう、免許状の取得に係る授業科目を含めた必修科目や選択科目などの専門科目を配置している（参照資料 5-4-①-イ）。

参照資料 5-4-①-ア: 各研究科規則

教育学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kyoikuin.htm>)
経済学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/keizaigakuin.htm>)
医学系研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/igakukein.htm>)
工学系研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kogakukein.htm>)
農学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/nogakuin.htm>)

参照資料 5-4-①-イ: 各研究科履修細則

教育学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kyoikurisyusaisoku.htm>)
経済学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/keizaigakurisyusaisoku.htm>)
医学系研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/igakukeirisyusaisoku.htm>)
工学系研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kogakukeirisyusaisoku.htm>)
農学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/nogakurisyusaisoku.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

大学院学則に定める目的に照らして、各研究科の教育の目的が規則に定められ、授与する学位に応じて、教育課程の編成方針に沿った内容の授業科目を開講している。これらのことから、教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっている。

観点 5-4-②: 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点到係る状況】

各研究科の授業科目を担当する教員は、専門分野、研究活動の内容、社会的なニーズを考慮しており、それらを授業の教材等として活用したり、教科書として刊行する等、カリキュラムや授業科目の内容に反映している（資料 5-4-②-A）。

例えば教育学研究科では、平成 19 年度文部科学省の専門職大学院等教育推進プログラムに採択された「発達障害と心身症に強い教員の養成」により、大学院教育実習等、質の高い指導力と対応力を有する教員の養成を行っている（参照資料 5-4-②-ア）。医学系研究科では、全国でもユニークな取組として、高齢化社会における包括医療のニーズに対応するための医科学専攻の教育課程に総合ケア科学系コース（修士課程）及び総合支援医科学コー

ス（博士課程）を設置し、新分野の開拓を目指す学生及び社会の要請に込えている（参照資料5-4-②-イ）。

工学系研究科では、自己啓発と学際的総合能力を養うための「総合セミナー」、複数の教員が一定の期間、専攻・大講座の枠を越えてチームを組織し、「特定プロジェクト研究」を行う「特定プロジェクトセミナー」等の授業科目を開設している。また、外国人学生が日本語の障壁なく教育を受け、研究に取り組めるよう英語による授業を行う「地球環境科学特別コース」（別添資料5-4-②-1）を設置している。また、大学間学術交流協定を締結している諸外国の大学間で、留学制度を実施している（別添資料5-4-②-2）。

資料5-4-②-A： 研究活動及び研究業績等を授業科目に反映させた例

研究科	授業科目	研究活動及び研究業績等
教育学研究科	地理学特論 AI	1. 「中心市街地の活性化と今後の役割」 『経済地理学年報』 第52巻, 251- 263. 2. 「スマートグロス政策とトロント中心市街地の再生」 平成16年度～平成18年度 科学研究費補助金（基盤研究(A)(1)）研究成果報告書『社会経済構造の転換と21世紀の都市圏ビジョン ―欧米のコンパクト・シティ政策と日本の都市圏構造―』253-263.
経済学研究科	開発経済論研究	“Exploring ownership of Aid-Funded Projects: A Comparative Study of Japanese, Norwegian and Swedish Project Aid to Sri Lanka”, (共), in 「Aid relationships in Asia: A Study of Japanese and Nordic Aid in Asia」, Ed. by Alf Morten Jerve (Editor), Yasatami Shimomura (Editor), Annette Skovsted Hansen, Publisher: Palgrave, UK, February 2008
医学系研究科	社会・予防医学概論	(研究活動) 癌や生活習慣病の疫学的研究 (論文) Hara M, Sakamoto T, Tanaka K, Effectiveness of Influenza Vaccination in Preventing Influenza-like Illness among Community-Dwelling Elderly: Population-based Cohort Study in Japan. Vaccine. 2006 Jul 7;24(27-28):5546-51
工学系研究科	素粒子物理学	(研究活動) 素粒子の標準理論に関する研究 (論文) K. Funakubo and S. Tao, The Higgs sector in the Next-to-MSSM Progress of Theoretical Physics, Vol.113, No.4 (2005) 821-842
農学研究科	アグロサイエンス特論	(研究活動) 環境中の汚染物質の代謝分解について (論文) Ueno, D., Darling, C., Alae, M., Campbell, L., Pacepavicius, G., Teixeira C., Muir, D. (2007) Detection of Hydroxylated Polychlorinated Biphenyls (OH-PCBs) in the Abiotic Environment: Surface Water and Precipitation from Ontario, Canada. Environmental Science and Technology, 41

(出典：平成20年度教員報告様式データより作成)

別添資料5-4-②-1：地球環境科学特別コースの内容（学生募集要項）

別添資料5-4-②-2：学生便覧 85～87ページ（参考：http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/h21_Binran.pdf）

参照資料5-4-②-ア：佐賀大学スマイルルーム ウェブサイト (<http://smile.pd.saga-u.ac.jp/>)

参照資料5-4-②-イ：医学系研究科修士課程医科学専攻紹介 ウェブサイト

(<http://www.med.saga-u.ac.jp/graduate/masters%20program%20in%20medical%20science.htm>),

医学系研究科博士課程医科学専攻紹介 ウェブサイト

(<http://www.med.saga-u.ac.jp/graduate/doctoral%20program.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

授業科目の担当教員は、授業科目の内容に研究成果を反映させ、学術の発展動向に配慮している。また、教育学研究科の専門職大学院等教育推進プログラム「発達障害と心身症に強い教員の養成」による大学院教育実習、医学系研究科医科学専攻における総合ケア科学系コース、総合支援医科学コース、工学系研究科の地球環境科学特別コースなど、学生のニーズや、社会からの要請に配慮した教育課程を編成している。これらのことから、教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮している。

観点 5-4-③： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

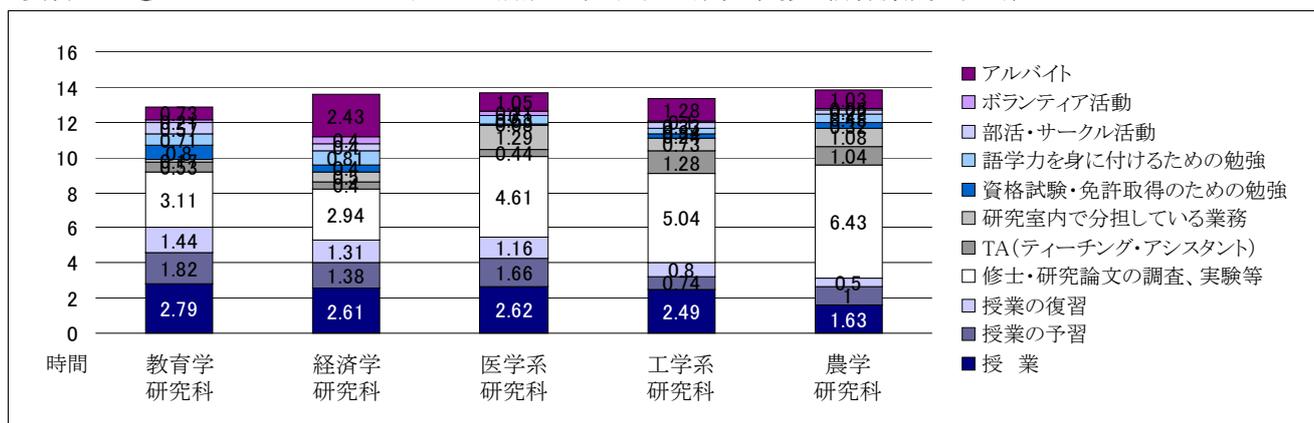
各研究科において、履修モデル(別添資料 5-4-③-1)に基づき、授業科目の単位修得に係る指導を行っている。また、「シラバス作成に関する要項」(資料 5-1-③-A【前掲】)を定め、オンラインシラバスに履修上の注意や学習の課題を記載するなど、大学院学生の自主学習を促している(資料 5-4-③-A)。授業科目毎に予習・復習に費やした時間については、学士課程と同様、学生による授業評価を実施するとともに、修了予定者アンケートにより調査している(資料 5-4-③-B)。GPA制度についても、学士課程と同様、「成績評定平均値に関する規程」(参照資料 5-4-③-ア)に基づき導入しており、「GPAを用いた学修指導計画」(別添資料 5-4-③-2)を策定している。

資料 5-4-③-A： オンラインシラバスに記載された自主学習を促すための課題例

開講年度	2008	開講時期	前学期
科目コード	47022500		
科目名			
担当教員(所属)			
単位数	2.0		
曜日・時限	金 1		
講義概要(開講意図・到達目標等を含む)	生徒指導のあり方は学級集団にかかっており、学級集団のあり方もまた、生徒指導にかかっている。こうした学級集団と生徒指導の関係は、学校教育をアカデミック/応用のいずれのレベルで理解するにあたって、重要な結節点になっている。本講義では、受講者の学級集団理解に新たな視座が生まれるよう、社会心理学や社会学など、社会科学の研究成果を広く紹介しながら、一般的な集団力学と、学級に特有の学級集団力学を比較する。最終的には、学級集団が成立する過程を整理して理解するための洞察力が向上することを目指している。		
履修上の注意	第12回以降の「教育問題の解題」では、受講者は学級集団の管理・運営と生徒指導の関係に焦点を当てて、すべての受講者が報告し、質疑応答を行う。講師はその結果に基づき、コメントを作成する。受講者はコメントに基づき自らの報告に再考をくわえ、レポートにまとめ、提出することを原則とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(シラバス、成績評価の方法と基準等の説明) 次回までの課題：講義内容と各自の研究テーマとの接点を確認しておくこと。 2 学級集団の管理・運営 次回までの課題：講義内容を整理しておくこと。 3 授業秩序の形成 次回までの課題：講義内容を整理しておくこと。 4 信頼と協調の集団力学① 次回までの課題：何が優越戦略なのかを検討しておくこと。 5 信頼と協調の集団力学② 次回までの課題：何が優越戦略なのかを再検討しておくこと。 6 信頼と協調の集団力学③ 次回までの課題：講義内容を整理しておくこと。 7 教育達成とパーソナリティ 次回までの課題：講義内容を整理しておくこと。 8 社会の原理 次回までの課題：講義内容を整理しておくこと。 9 リーダーシップ 次回までの課題：講義内容を整理しておくこと。 10 教育問題の解題① 次回までの課題：質疑応答の内容を整理し、推敲しておくこと。 11 教育問題の解題② 次回までの課題：質疑応答の内容を整理し、推敲しておくこと。 12 教育問題の解題③ 次回までの課題：質疑応答の内容を整理し、推敲しておくこと。 13 総括(コメントのフィードバック) 		

(出典：オンラインシラバス (<http://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>))

資料 5-4-③-B: 一日当たりの活動の平均的な時間の総数 (休業期間を除く)



(出典：平成 20 年度佐賀大学共通アンケート調査 (卒業・修了予定者対象) 27 頁)

別添資料 5-4-③-1: 履修モデル (履修案内 (部局例示 教育学研究科学校教育専攻))

別添資料 5-4-③-2: G P A を用いた学修指導計画

参照資料 5-4-③-ア: 成績評定平均値に関する規程 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/gpa.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

シラバス作成に関する要項に基づき、オンラインシラバスに履修上の注意や学習課題を記載し、自主学習を促しており、予習・復習等に費やした時間の調査において、一定の自主学習時間の確保状況が示されている。また、G P A 制度を導入しており、「G P A を用いた学修指導計画」を策定している。これらのことから、単位の実質化への配慮がなされている。

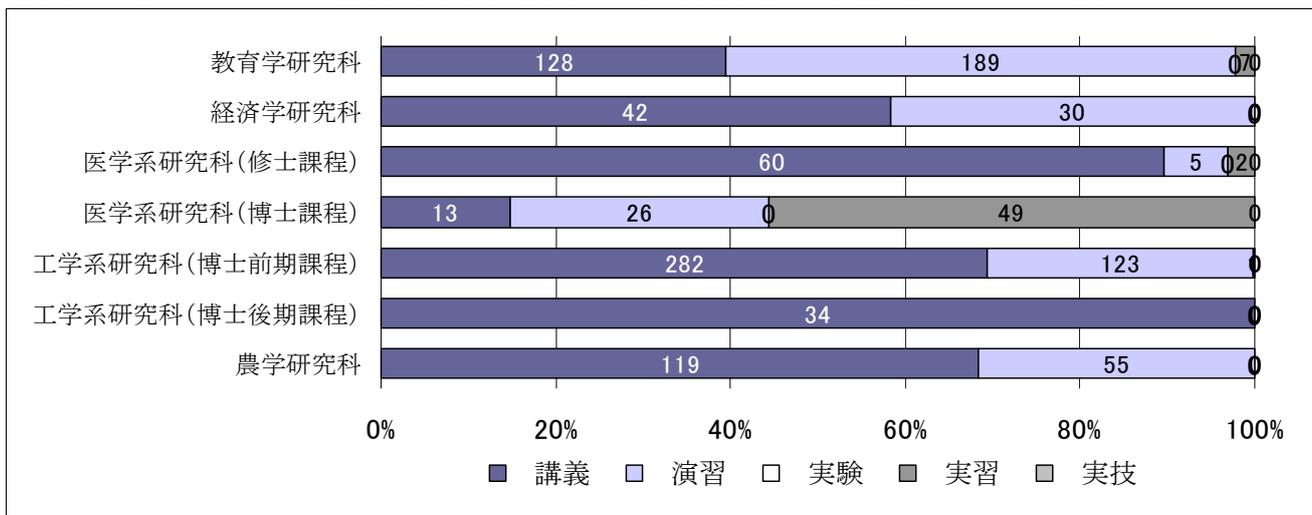
観点 5-5-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

【観点到に係る状況】

各研究科が定める教育の目的に照らして、各専攻の特性に応じた講義、演習、実験、実習等の授業科目を開講している (資料 5-5-①-A)。大学院課程の授業科目は、基本的に少人数教育となっており、対話・演習型等、学習指導法を工夫している (資料 5-5-①-B)。

また、各研究科における学習指導法の特徴として、教育学研究科では、学校での学習や集団行動に特別な支援を必要とする小中学生を大学に招き、得手不得手を把握したうえで、指導を实践する「臨床教育実習」(別添資料 5-5-①-1) に取り組んでいる。医学系研究科では、研究を行うために必要な研究デザイン (課題の抽出・設定、仮説・立証計略の立案、方策・方法の考案、手順・計画設計など) の理論と研究実践の技術等を学ぶ「研究法」及び「研究実習」等を行っている (参照資料 5-5-①-ア)。工学系研究科では、「国際パートナーシッププログラム」(別添資料 5-5-①-2) 及び国外大学の学生と本学学生が共同でプログラム開発する講義、「戦略的国際人材育成プログラム」(参照資料 5-5-①-イ) において英語授業を行っている。

資料 5-5-①-A : 講義, 演習, 実験, 実習等の授業形態別の開講状況 (平成 20 年度)



(出典：教務課データより作成)

資料 5-5-①-B : 少人数授業の例 (部局例示)

開講年度	2008	開講時期	前学期
科目コード	62100000		
科目名	Special Research(特別研究)		
担当教員(所属)			
単位数	8.0		
曜日・時限			
授業計画	<p>以下の項目についての研究指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題のテーマの設定および研究計画の立案に対して適切な指導を行う。 ・修士論文作成に必要な専門知識や技術を修得するため、研究指導を行う。 ・研究室のゼミおよび試問会などにおける研究発表を通して、プレゼンテーション技術の指導を行う。 ・学会、研究会などへの参加機会を積極的に提供し、最低1回の学会発表を努力目標として課す。 ・1・2年生の研究活動によって修士論文作成を指導し、2年生の8月に論文を提出させる。 ・論文提出後開かれる修論試問会において、主指導教員と副審査教員により審査を行う。 		
成績評価の方法と基準	<p>修士論文と試問会での発表に対して、以下に示す評価項目に基づき総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 修士論文の評価項目 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の意義や目的を理解して明確に記述されているか ・結果に至るまでの過程、方法および結果の評価について、合理的かつ明確に記述されているか ・論文の構成が適切で、読みやすく記述されているか ○ 試問会発表の評価項目 <ul style="list-style-type: none"> ・発表態度が適切であるか ・研究の目的を正しく理解しているか ・結果に至るまでの過程を理解していたか ・限られた時間内に内容を伝えることができたか ・結果を分かりやすく表示できたか ・質問に回答できたか 		

(出典：オンラインシラバス (<http://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>))

別添資料 5-5-①-1：「臨床教育実習の取り組み概要」
 別添資料 5-5-①-2：平成 20 年度 国際パートナーシッププログラム

参照資料 5-5-①-ア：医学系研究科博士課程医科学専攻 ウェブサイト
 (<http://www.med.saga-u.ac.jp/graduate/doctoral%20program.htm>)
 参照資料 5-5-①-イ：佐賀大学大学院戦略的国際人材育成プログラム要項
 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/jinzai.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

上記のように、各研究科の教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、臨床教育実習、国外大学の学生と本学学生が共同でプログラム開発する講義、英語による授業など、特色ある学習指導法の工夫が適切になされている。

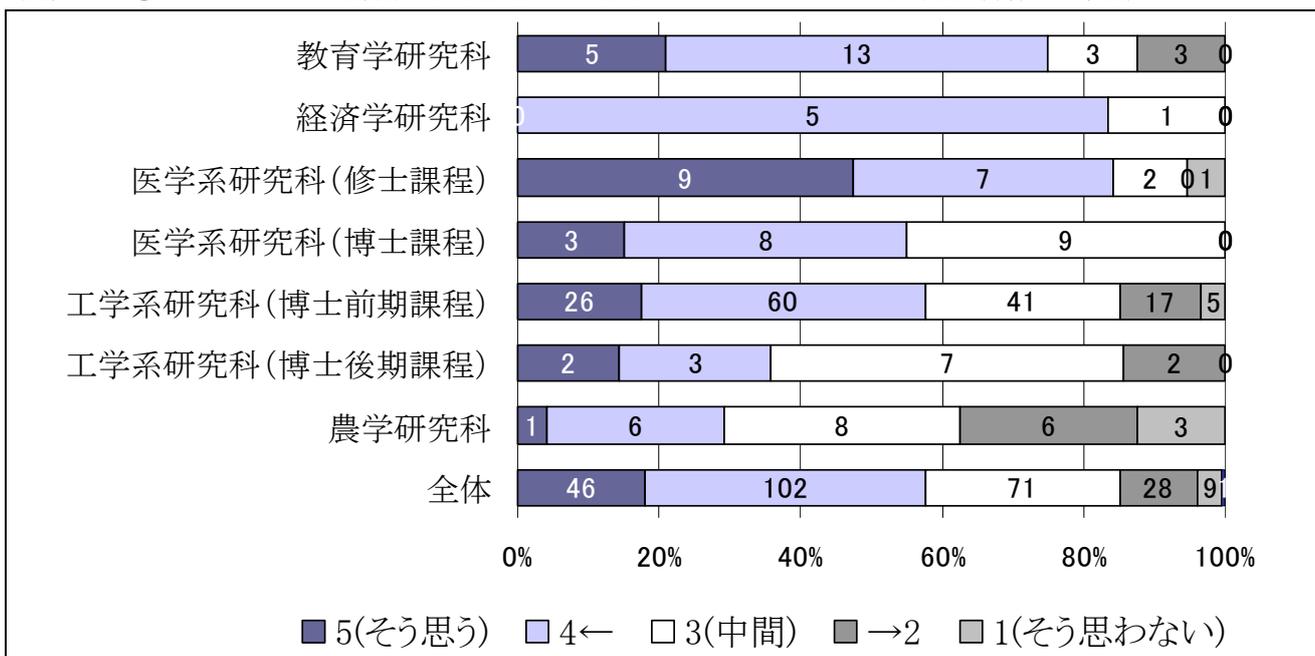
観点 5-5-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点に係る状況】

学士課程と同様、全学的に統一した様式により、全ての授業科目について、シラバスを「教務情報事務システム」上に掲載している(参照資料 5-5-②-ア)。「シラバス作成に関する要項」(資料 5-1-③-A【前掲】)に基づき、シラバス作成の目的を明確にし、「講義概要(開講意図・到達目標等含む)」、「授業計画」、「成績評価の方法と基準」等の項目を記載している。

在校生を対象としたアンケートによれば、「シラバスは科目選択の参考になりましたか」という質問への回答は、概ね平均 3 点(5 段階評価)以上となっている(資料 5-5-②-A)。

資料 5-5-②-A： 授業科目の選択におけるオンラインシラバスの参考度(平成 20 年度)



(出典：佐賀大学学生対象アンケート報告書(平成 20 年度) 44 頁)

参照資料 5-5-②-A : オンラインシラバス

(<http://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>)

【分析結果とその根拠理由】

全学的に統一されたオンラインシラバスに、開講意図・到達目標を含む講義概要、授業計画、成績評価の方法と基準等の項目を記載し、全ての授業科目について「教務情報事務システム」上にオンラインシラバスを掲載している。これらのオンラインシラバスは、学生から科目選択の参考にされている。これらのことから、教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されている。

観点 5-5-③： 夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例）を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点到に係る状況】

大学院学則第 7 条及び第 12 条（資料 5-5-③-A）に教育方法の特例（大学院設置基準第 14 条）を定め、教育学研究科、経済学研究科及び医学系研究科において、夜間における授業を実施している（別添資料 5-5-③-1）。経済学研究科では、現職のまま入学を希望する社会人学生に配慮して、夜間に実施する授業科目のみで修了に必要な単位を修得できるよう、VI校時（18:00～19:30）、VII校時（19:40～21:10）に授業時間割を構成し、指導を行っている（資料 5-5-③-B）（観点 7-1-④参照）。

資料 5-5-③-A： 夜間における授業の実施

（修士課程及び博士前期課程の標準修業年限）

第 7 条 修士課程及び博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、2年を超えるものとする事ができる。

2 前項の規定にかかわらず、修士課程及び博士前期課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であつて、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。

（教育方法）

第 12 条 大学院における教育は、授業科目の授業及び研究指導により行う。

2 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

3 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められた場合には、他の国立の研究所等の研究者を大学院教員に併任する等の方法により、当該研究所等において授業又は研究指導を行うこと（連携大学院方式と称する。）ができる。

（出典：佐賀大学大学院学則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakusoku/ingakusoku.htm>)

資料 5-5-③-B： 平成 20 年度における夜間開講授業の開講状況（経済学研究科）

前 期	後 期
実用外国語	開発経済学研究
金融経済論研究	応用統計研究
情報基礎	地方自治法制研究
数理経済分析研究	現代労使関係研究
簿記論研究	経済地理学研究
環境法研究Ⅱ	財務会計論研究
民法研究Ⅰ	地域農業政策研究
地域政治研究	日本アジア比較経済史研究
組織論研究Ⅱ	国際会計論研究
公共財政論研究Ⅱ	産業政策論研究
比較経済思想研究	経営財政論研究

(出典：平成 20 年度経済学研究科授業時間割)

別添資料 5-5-③-1：平成 21 年度前学期夜間講義時間割表

【分析結果とその根拠理由】

上記のように、社会人学生が無理なく授業科目を履修できるように時間割を編成し、授業を実施していることから、夜間において授業を実施している課程では、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われている。

観点 5-5-④： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

該当なし

観点 5-6-①： 教育課程の趣旨に沿った研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて行われているか。

【観点到係る状況】

大学院学則及び各研究科規則（参照資料 5-6-①-ア～イ）により、授業科目及び学位論文の作成を通して研究能力を培うことを定めている。また、個別指導の強化を図るため、「大学院における研究指導計画に基づく研究指導実施要領」（資料 5-6-①-A）を制定し、学生ごとに研究指導計画、研究指導実施経過、研究指導の点検・評価に関する報告書を作成することを定め、それに基づき、研究の中間報告会、各学生の研究に対する助言、指導を行っている（別添資料 5-6-①-1）。

研究科によっては、研究指導または修士論文執筆の指導を複数の教員で実施している（別添資料 5-6-①-2）。

資料 5-6-①-A : 佐賀大学大学院における研究指導計画に基づく研究指導実施要領

佐賀大学大学院における研究指導計画に基づく研究指導実施要領

(趣旨)

第1 この要領は、佐賀大学大学院における研究指導の改善の実施に関して、必要な事項を定めるものとする。

(研究指導の実施に関する報告書)

第2 研究指導教員は、各研究科等(研究科、専攻をいう。以下同じ。)が定める研究指導計画に基づき、研究指導状況及び当該学生の研究の進捗状況を把握するため、次に掲げる事項を各研究科の定める研究指導の実施に関する報告書に記載し、所定の期間内に定められた方法により研究科等の長に提出しなければならない。

(1) 学生ごとの研究指導計画

(2) 研究指導実施経過

(3) 研究指導の点検・評価

(研究指導の実施に関する報告書の活用)

第3 研究科等の長は、前条に定める研究指導の実施に関する報告書に基づき、必要に応じて研究指導の身直し等の具体的かつ継続的な方策を講じるものとする。

附則

この要項は、平成20年4月1日から実施する。

(出典：佐賀大学大学院における研究指導計画に基づく研究指導実施要領)

別添資料5-6-①-1：研究指導実施報告書(部局例示：農学研究科)

別添資料5-6-①-2：指導・副指導教員一覧(経済学研究科)

参照資料5-6-①-ア：佐賀大学大学院学則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakusoku/ingakusoku.htm>)

参照資料5-6-①-イ：各研究科規則

教育学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kyoikuin.htm>)

経済学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/keizaigakuin.htm>)

医学系研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/igakukein.htm>)

工学系研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kogakukein.htm>)

農学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/nogakuin.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

大学院における研究指導計画に基づく研究指導実施要領を定め、研究指導教員は、学生ごとに個別の研究指導計画書を作成し、計画に沿って研究及び論文作成に係わる指導を実施するとともに、その過程を研究指導実施報告書としてまとめている。これらのことから、教育課程の趣旨に沿った研究指導、学位論文に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて行われている。

観点5-6-②： 研究指導、学位論文に係る指導に対する適切な取組が行われているか。

【観点到係る状況】

観点5-6-①で記述したように、「大学院における研究指導計画に基づく研究指導実施要領」(資料5-6-①-A【前掲】)を制定し、学生ごとに作成した研究指導計画に沿って、研究テーマの決定から論文作成までの指導を主研究指導教員が主体となり、各研究グループで行っている。研究科によっては、副指導教員を置き、複数の教員で指導を実施している(別添資料5-6-①-2【前掲】)。

また、ティーチング・アシスタント(TA)としての活動を通して、TA自身の教育・指導力の訓練等を適切

に行うため、「ティーチング・アシスタント実施要項」(参照資料 5-6-②-ア)を改正するとともに、「ティーチング・アシスタント運用要領」(別添資料 5-6-②-1)を制定してTAを活用し(資料 5-6-②-A)、「TA実施報告書」(資料 5-6-②-B)及び「研究指導の実施に関する報告書」(別添資料 5-6-①-1【前掲】)を提出することを定め、大学教育委員会に提出している。リサーチ・アシスタントについては、「リサーチ・アシスタント(RA)実施要項」(参照資料 5-6-②-イ)に基づき、RAを採用し、RA実施報告書を提出している。

資料 5-6-②-A: ティーチング・アシスタント(TA)の採用実績(平成 20 年度)

実施部局名	文化教育学部	経済学部	医学部	理工学部	農学部	教養教育 運営機構
人 数	24	3	61	209	112	85

(出典：事務局資料)

資料5-6-②-B: ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書 (例示)

科目名				
担当教員				
	氏名	所属 (研究科・専攻)	学年	採用期間
TA			3年 2年 2年 1年 1年	平成20年4月11日～ 平成20年7月30日
勤務時間	週当たり 1.5 時間	総計	21 時間	
補助業務の内容 (複数の場合は簡条書で記入して下さい)				
次の講義および講習の5項目の指導を補助する。 1. Live Campus の利用法、2. 図書館・センターの利用法、3. コンピューターの基礎知識、4. インターネットの利用法、5. プレゼンテーションソフトの利用、6. ワードプロソフトの利用法、7. 化学文献検索				
事前研修及び指導内容				
<p>○情報基礎演習が他とはかなり異なる授業形態であること、つまり個々の受講者が自身で端末を操作し、コンピュータの仕組みや各種ソフトウェアの使用法を学ぶ方式であることを説明した。</p> <p>○演習を円滑に進めるためにも、担当教員の講義や説明と並行して、受講生の端末操作を補助する必要があることを理解しておくよう指導した。</p> <p>○演習前には自分で課題を解いておき、間違えやすい箇所について事前に把握しておくことを指導した。</p> <p>○学生の質問にはすばやく答え、適切な指示を与える。端末の操作は受講生が行うことを原則とすること、実演してみせた場合は、もとの状態に戻した後受講生に操作させることを指導した。</p> <p>○1人の受講生に長時間説明することが無いように留意すること、受講生には平等に接すること、及び端末のトラブル等、自分だけでは対処出来ない場合には、補助の教員にすみやかに連絡することを指導した。</p>				
TA従事者から集約した活動内容(TAから活動内容を集約して記入して下さい)				
<p>○パソコンの操作を得意としない学生を把握し、なるべく注意して見て回った。その際講義の内容を把握できてない学生に対しては、テキストをみせ、理解できなかった操作や内容を再度学生のペースで説明するよう心掛けた。</p> <p>○学生に対し、自分が把握しているエクセル・ワードの操作やショートカットキーの使い方を今後の効率上昇を期待し、講義内容を理解させるのと同時に教えるようにした。(例えば、ワードやエクセル使い方では一度操作をしてみせ、その後ctrl+z で元の場所まで戻す etc.)</p> <p>○パソコン操作の説明において、早く次の要点を伝えようと、説明を急いでしまい、学生がついてこれないことがあったので、学生が理解できるよう、ゆっくり説明するよう心掛けました。</p> <p>○パソコンの操作については理解できるように説明したが、課題などに関わる内容については学生に考えさせるようにした。</p>				
TAを採用したことにより得られた成果				
100名以上の学生が受講しており、事前知識および要領も個人によって異なる。このような条件において、演習という性質上、受講生は課題をこなしていくことが必要であり、TAの存在無しには、きめ細やかな指導は不可能である。5名のTAは十分にその役割をなしてくれた。				

(出典：平成20年度ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書)

別添資料5-6-②-1: 佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領

参照資料5-6-②-7: 国立大学法人佐賀大学ティーチング・アシスタント実施要項

(http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/jinji/teachg.htm)

参照資料5-6-②-8: 佐賀大学リサーチ・アシスタント (RA) 実施要項 (http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/kenkyu/ra.htm)

【分析結果とその根拠理由】

学生ごとに作成した研究指導計画に沿って、研究テーマの決定から論文作成までの指導を主研究指導教員を中心に行っており、大学院学生をTAやRAとして活用し、その活動を通じた教育的機能訓練や研究能力育成の成果がTA・RA実施報告書に示されている。これらのことから、研究指導、学位論文に係る指導に対する適切な取組が行われている。

観点5-7-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

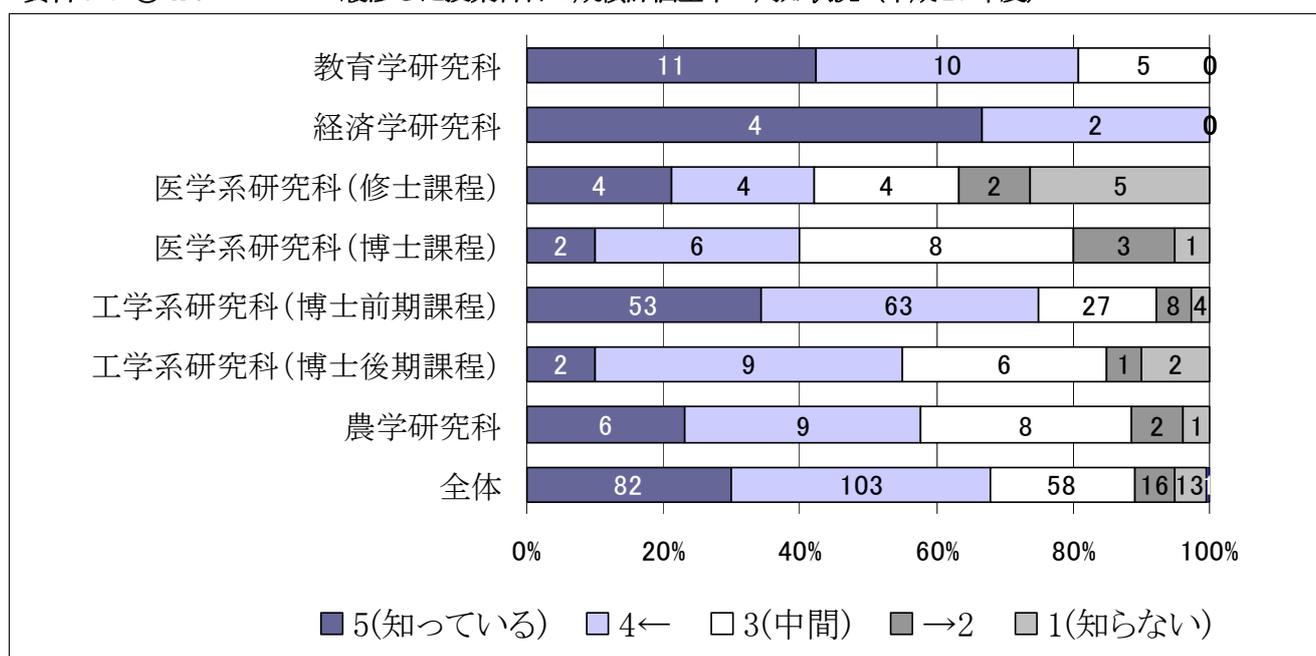
成績評価は、大学院学則第50条により、学則第22条（資料5-3-①-A【前掲】）を準用し、成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格、不可を不合格とする基準を策定している。

修士課程の修了認定要件は、大学院学則第18条により、2年以上の在学、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することと定めている。

博士課程の修了認定要件は、大学院学則第19条により、3年以上の在学、研究科が定めた所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することと定めている。医学系研究科の博士課程の修了認定要件については、大学院学則第20条により、4年以上在学し、研究科が定めた所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することと定めている。

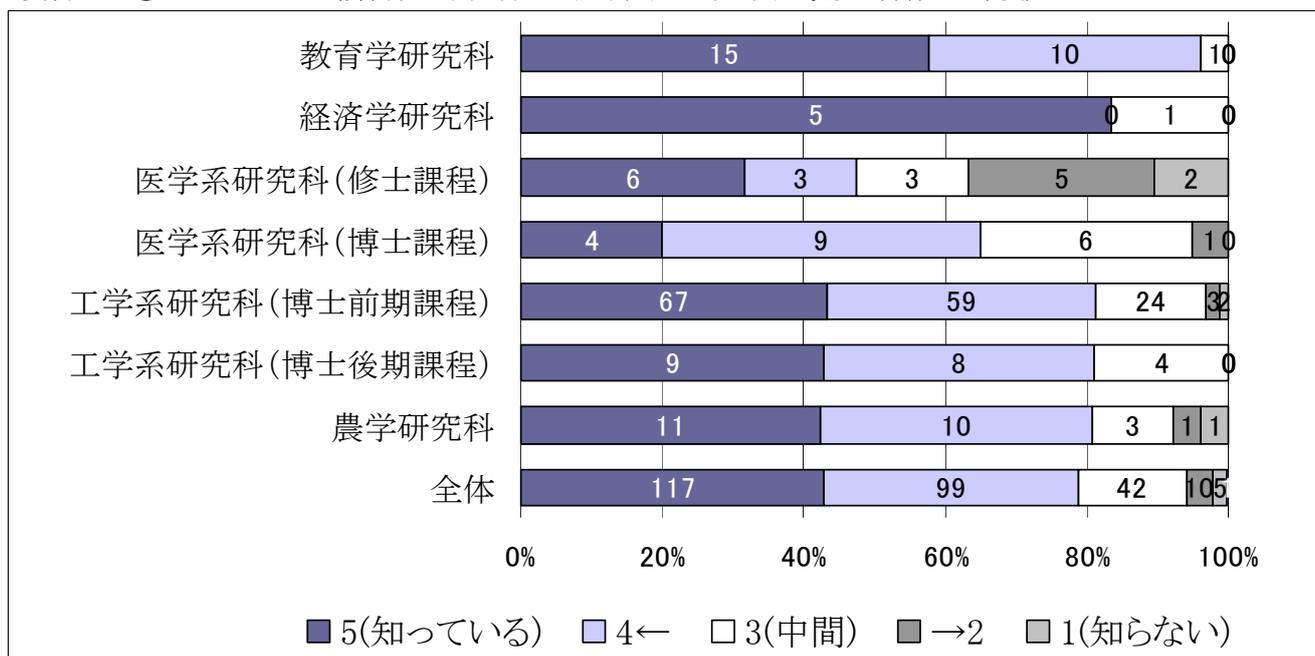
これらの成績評価や修了認定の基準は、入学時の大学院オリエンテーションで配布する「学生便覧」(別添資料5-3-①-1【再掲】)に掲載し、専攻ごとのガイダンス等で大学院学生に周知している。授業科目ごとの成績評価基準は、各科目のオンラインシラバスに明記し、その基準に沿って成績評価を行っている。なお、これらの基準が周知されていることがアンケート調査で示されている(資料5-7-①-A～B)。

資料5-7-①-A： 履修した授業科目の成績評価基準の周知状況（平成20年度）



(出典：学生対象アンケート報告書（平成20年度）33頁より作成)

資料 5-7-①-B: 所属する研究科での修了認定基準の周知状況 (平成 20 年度)



(出典：学生対象アンケート報告書 (平成 20 年度) 34 頁より作成)

【分析結果とその根拠理由】

成績評価の基準及び修了認定要件を大学院学則に定め、授業科目ごとの成績評価基準は各科目のオンラインシラバスに明記し、これらに従って成績評価、単位認定や修了認定を行っており、学生によく周知されている。以上のことから、教育の目的に応じた成績評価基準や修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

観点 5-7-②: 学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制が整備されているか。

【観点に係る状況】

大学院学則第 21 条、学位規則、各研究科規則 (参照資料 5-7-②-ア〜ウ) に基づき、研究科委員会が研究科の教員の中から 3 人以上の学位論文審査員を選出し、うち 1 人を主査とする審査員組織で行っている。但し、必要があるときは、研究科委員会の議を経て、研究科委員会の構成員以外の者を審査員に加えることができる。

審査に当たっては、研究科委員会において、学位論文提出の資格要件審査、提出論文の要件審査、審査員の選出を行い、審査員による公開審査及び最終試験の結果報告を受けて、学位授与の可否を研究科委員会で決定している。なお、学位論文に係る評価基準は、履修案内等に掲載し、周知している (別添資料 5-7-②-1~2, 参照資料 5-7-②-エ〜オ)。

別添資料 5-7-②-1：修士論文等の審査に関する内規（部局例示：医学系研究科）
 佐賀大学大学院医学系研究科学位授与実施細則（第2～7条）
 学位論文の提出，審査及び審査員に関する申合せ
 別添資料 5-7-②-2：履修案内等（教育学研究科，経済学研究科，工学系研究科，農学研究科）

参照資料 5-7-②-ア：佐賀大学大学院学則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakusoku/ingakusoku.htm>)

参照資料 5-7-②-イ：佐賀大学学位規則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/gakui.htm>)

参照資料 5-7-②-ウ：各研究科規則

教育学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kyoikuin.htm>)

経済学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/keizaigakuin.htm>)

医学系研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/igakukein.htm>)

工学系研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/kogakukein.htm>)

農学研究科 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/daigakuin/nogakuin.htm>)

参照資料 5-7-②-エ：履修案内等

学習要項（医学系研究科）

・修士課程医科学専攻履修案内

(http://www.med.saga-u.ac.jp/admdir/editor_img/File/20-02-05syuusi-ikagaku.pdf)

・修士課程看護学専攻履修案内

(http://www.med.saga-u.ac.jp/admdir/editor_img/File/20-03-04syushi-kango.pdf)

・博士課程医科学専攻履修案内

(http://www.med.saga-u.ac.jp/admdir/editor_img/File/20-01-06hakushi.pdf)

参照資料 5-7-②-オ：理工学部集報 ウェブサイト（部局例示）(<http://www.se.saga-u.ac.jp/syuhou/index.html>)

【分析結果とその根拠理由】

学位論文審査の手続きに係る事項を大学院学則，学位規則等に定め，学位論文の評価基準を履修案内などに掲載している。学位論文は審査員による公開審査等を経て，研究科委員会の議を経て学長が学位を授与している。これらのことから，学位論文に係る評価基準が組織的に策定されるとともに，学生に周知されており，適切な審査体制が整備されている。

観点 5-7-③： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

各研究科では，学士課程と同様，成績評価の正確さを担保するための措置として，「成績評価の異議申立てに関する要項」（資料 5-3-②-A 【前掲】）に基づき，成績評価に疑問のある学生は担当教員に申し出て，答案，レポート等閲覧できるよう配慮している（資料 5-7-③-A）。本要項に基づき，学生が成績評価への質問又は異議がある場合，担当教員に申し出て，学生と担当教員との協議によって成績評価に対する疑義を解決している（資料 5-7-③-B）。

資料 5-7-③-A : 試験問題、解答例等の開示方法

<p>成績評価の方法と基準</p>	<p>3. 論理の展開(14ポイント) ※自らのテーマ(主題)について、具体的・論理的に説明されていること。 (採点例) a. ありきたりな一般論、トートロジー(同語反復)に終わっている。(5ポイント) b. ありきたりな一般論から脱して、自分なりの論述になっているもの。(6~8ポイント) c. 具体的な例を提示して、テーマの設定に努めている。(9~11ポイント) d. c)にくわえ、論理が緻密になっている。(12~14ポイント)</p>
	<p>【解答例等の開示】 履修予定者には、以下の資料等をオリエンテーション時に配布します。 (1) レポート等の課題 (2) レポート等の解答例または出題の意図 (3) 配点</p>

(出典：オンラインシラバス (<http://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>))

資料 5-7-③-B : 担当教員との成績評価に関する協議事例

教育学研究科	
科目名	内容
指揮法特別演習	再度のレッスンを通して内容に対する理解度の検証。
経済学研究科	
科目名	内容
該当なし	同左
医学系研究科	
科目名	内容
麻酔蘇生学	オフィスアワー 学生と個別面談
工学系研究科	
科目名	内容
都市工学特別演習 2	提出物を保管した。また、未提出の場合のみ不可とした。採点の基準を示し、周知を図った。
農学研究科	
科目名	内容
該当なし	同左

(出典：平成 20 年度教員報告様式データより作成)

【分析結果とその根拠理由】

本学の大学院課程は、学士課程と同じように、成績評価の異議申し立て制度を導入し、成績評価への疑問は担当教員との協議によって解消されている。これらのことから、成績評価の正確さを担保するための措置が講じられている。

<専門職学位課程>

該当なし

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 「佐賀環境フォーラム」, 「ネット授業の展開」, 地域創生型学生参画教育モデル開発事業」や, 「発達障害と心身症に強い教員の養成」, 「実践臨床医養成への問題基盤型学習の実質化」等, さまざまな授業形態や学習指導法を工夫し, 文部科学省のGP等に採択されている。これらの取組は, 佐賀で学ぶ本学の学生としてのアイデンティティを育むための優れた教育プログラムとなっている。

【改善を要する点】

- 成績評価に疑問のある学生が答案, レポート等を閲覧できる制度を, 学生が適切に活用できるよう改善する余地がある。このため, 「教務情報事務システム」上に掲載した, 試験問題や答案等の開示方法の入力状況を点検し, 開示環境の改善を進めている。

(3) 基準5の自己評価の概要

本学の学士課程では, 学則に定める教育課程の編成方針に沿って, 大学入門科目, 共通基礎教育科目, 主題科目から成る教養教育科目と, 専門基礎科目, 専門科目等から成る専門教育科目を, 教員の研究成果を反映させながら編成している。また, 学生の多様なニーズや社会からの要請に配慮し, 国内外の大学との単位互換, インターシップ, 編入学・転学部制度を導入している。

特色ある取組として, 平成15年度特色GPに採択された「佐賀環境フォーラム」, 平成16年度現代GP「ネット授業の展開」, 平成17年度特別教育研究費(教育改革)「地域創生型学生参画教育モデル開発事業」等がある。これらの取組は, 教育の目的に照らして, ICTの活用, フィールド型授業など, さまざまな授業形態や学習指導法を工夫したものである。その他, 医学部医学科では問題解決型学習(PBL)等, 教育の内容に応じた学習指導法を採用している。

成績評価の基準については, オンラインシラバスに成績評価基準を掲載し, オリエンテーション, 学科・課程毎のガイダンス等により, 学生に周知している。成績評価の正確さを担保する制度として, 成績評価の異議申立て制度を導入し, 卒業認定については, 学則及び学部規則に定める卒業の要件等に基づき, 事前に審査し, 教授会の議を経て行っている。

大学院課程では, 大学院学則に掲げる目的に照らして, 授与する学位に応じた必修科目, 選択科目などを配置し, 授業科目の内容に各教員の研究成果を反映させている。授業科目は基本的に少人数であり, 対話・演習型等, 学習指導法を工夫している。特色ある取組として, 平成19年度文部科学省の専門職大学院等教育推進プログラムに採択された「発達障害と心身症に強い教員の養成」による大学院教育実習(教育学研究科), 「国際パートナーシッププログラム」や「戦略的国際人育成プログラム」による英語授業(工学系研究科)等がある。

研究指導については, 「研究指導計画に基づく研究指導実施要領」に基づき, 学生ごとに研究指導計画を立て, 助言, 指導を行い, 研究指導実施経過, 研究指導の点検・評価の結果を報告している。また, TAやRAを活用し, 研究指導の実施に関する報告書, RA実施報告書を大学教育委員会に提出している。

成績評価や修了認定に関しては, 大学院学則に基準を定め, オリエンテーションで配布する学生便覧に掲載して, 周知を図っている。成績評価の正確さを担保するための措置としては, 学士課程と同じく, 成績評価の異議申し立て制度を導入している。

